

図書館だより

2020年



秀明大学学校教師学部附属秀明八千代中学校・高等学校 図書館

朝、草花に露がつき始める「白露（はくろ）」の時期になりました。昼夜の気温差が大きくなるため、朝晩に空気が冷やされ植物に露がつくのだそうです。朝に見かける露は季節が変わっていく証拠です。日中はまだまだ暑い日が続きそうですが、それも段々と和らぎそうです。季節の変わり目の体調管理にも気を付けましょう。

新しい本が入りました

- 『いつか読んでみたかった日本の名著シリーズ 学問のすすめ』 福沢諭吉・奥野宜之/致知出版社
- 『「さみしさ」の力 孤独と自立の心理学』 榎本博明/筑摩書房
- 『ハチミツ色のユン』 JUNG/DU BOOKS
- 『イギリスの素敵』 いしはらきの/文芸社
- 『石関の今すぐ書ける看護・医療系小論文 大学受験小論文』 石関直子/ナガセ
- 『現役東大医学部生が教える最強の勉強法』 宇佐見天慧/二見書房
- 『発達障害 思春期からのライフスキル』 平岩幹男/岩波書店
- 『やせるロカ弁』 落合貴子/永岡書店
- 『世界の郷土料理辞典』 青木ゆり子/誠文堂新光社
- 『猫からのおねがい 猫も人も幸せになれる迎え方&暮らし』 服部幸/ねこねっこ
- 『きみのまちに未来はあるか? 「根っこ」から地域をつくる』 除本理史/岩波書店
- 『戦力外Jリーガー経営で勝ちにいく 新たな未来を切り拓く「前向きな撤退」の力』
寄本晋輔/KADOKAWA
- 『レギュラーになれないきみへ』 元永知宏/岩波書店
- 『東京幻想作品集』 芸術新聞社
- 『タピオカガエルのタピオカ屋』 じゅえき太郎/実業之日本社
- 『はじめてのスケートボード』 H.L.N.A./成美堂出版
- 『翼を羽ばたかせて 世界のトップスケーター12人がつむぐ「氷上物語」』 田村明子/双葉社
- 『英熟語図鑑』 鈴木健二/かんき出版
- 『身近なテーマで考える力をやしなう小論文はじめの一步』 根岸大輔/学研プラス
- 『アオハル・ポイント』 佐野徹夜/KADOKAWA
- 『文豪たちの憂鬱語録』 豊岡昭彦/秀和システム
- 『発注いただきました!』 朝井リョウ/集英社
- 『日本沈没2020』 小松左京・吉高寿男/文藝春秋
- 『少年Nの長い長い旅』 石川宏千花/講談社
- 『明け方の若者たち』 カツセマサヒコ/幻冬舎

他にもたくさんの本が入りました。リクエストはいつでも受け付けています。



これはいいことがある前触れ？

最近よく見かけるアマビエ。

「疫病が流行したときには、私の姿を描き写した絵を人々に見せよ。」
と告げて海に戻っていった。

と、江戸時代に製作されたとされる書物に絵と文が記載されているということで、コロナウイルス撃退にも話題になりました。

伝説や占いの本は、図書館でもよく手に取られるので、昔も今も変わらず人気があるということのようです。

今月は『幸せを招く世界のしるし』（米澤敬/創元社）から、日本や世界で古くから伝わる幸せになるサインについての言い伝えを紹介します。



身近に起きる出来事のあれこれに隠されたメッセージを読み取ろうとする試みは、洋の東西を問わず古くから行われてきました。

この本では、どちらかというとな本人の意思とは関係なく「たまたま」出会ったり、見てしまったり、あるいはうっかりやってしまったりする「しるし」や「きざし」を世界各国から集め、文と絵で紹介しています。

あれこれ不安なことが多い昨今ですが、日常を楽しくするヒントはそこかしこに隠れているのかもしれませんが。その楽しみを教えてくれるような本書と、この本のシリーズ「世界を旅するイラストブックシリーズ」もおすすめです。



虫がとまる（バングラデッシュ）

虫が嫌いな人にとっては最悪な出来事ですが、実はラッキーなサインだとされています。とくに欧米ではテントウムシが吉兆！



五つ葉のクローバーを見つける（ヨーロッパ）

四葉のクローバーにの葉にはそれぞれ、希望、信頼、愛情、幸運という意味があります。それ以上に強力なラッキーアイテムが五つ葉のクローバー！一生のうちに1回出会えるかどうかの確率です。



朝のクモ（日本）

図書館では蜘蛛が出るとみんなで大騒ぎになりますが、朝見つける蜘蛛は幸運のしるし。慌てずそっとしておく方がいいかもしれません。



木曜日のくしゃみ（イギリス）

「1回はいい噂、2回は悪い噂、3回目は風邪」というのはおなじみ日本のくしゃみ占いですが、イギリスでは木曜日のくしゃみが吉！



両隣が同じ名前（トルコ）

自分の両隣に並んだ人が同じ名前の人だったら、近々幸運が舞い込む前触れです。ありそうでなさそうな状況ですが…

